

小学校・第6学年・総合的な学習の時間・ふるさと活性化発表会①

育成を目指す資質・能力

静岡市提供

- 地域の実情を知り、地域活性化に関する提案を考える活動を通して、地域の方の実際の実践の取組や思いに気付く。
- 地域の方や中学生と様々な形（対面・ウェブ会議システム・学習支援ソフト等）で交流する活動を通して、地域の抱える課題に対する解決方法等の提案についてより分かりやすく資料にまとめたり、発表したりする。
- 実際に地域貢献に取り組む方の思いや生き方に触れ、自分が今できることを考え、実行しようとする態度を身に付ける。

ICT活用のポイント

- 地域の現状について、地域活性化に関する取組や課題等の情報を収集する。【カメラ機能】
- 発表会へ向けたプレゼンテーション資料の制作を行う。【プレゼンテーションソフト】
- ウェブ会議システムで小中学校を接続し、中学生へ向けて発表する。中学生のアドバイスを受ける【ウェブ会議システム】
- アドバイスをもとに発表資料を修正し、地域・保護者へ向けた発表を行う。【プレゼンテーションソフト・学習支援ソフト】

事例の概要 ※ICT活用（遠隔交流等）の場面を中心に紹介

①地域調べ・インタビュー活動

【カメラ（動画）機能活用】

②プレゼンテーション資料制作

【プレゼンテーションソフト活用】

③小中学校間交流

【学習支援ソフト・ウェブ会議システム活用】

④資料修正・発表会の開催

【学習支援ソフト・プレゼンテーションソフト活用】

①地域調べ・インタビュー活動

地域活性化に取り組む地域の方へのインタビューや地域の様々な箇所の撮影・情報収集等を行う。データはプレゼンテーション資料制作に活用する。

②プレゼンテーション資料制作

児童がグループごとに担当ページを協同制作する。インタビュー活動での情報や画像等をもとにページを制作し、他グループの内容を共有する中で加除修正を行う。

③小中学校間交流

小中学校間を学習支援ソフト・ウェブ会議システムで接続。小学生がウェブ会議システムで中学生へ向けて発表を行い、中学生が学習支援ソフトで発表に対するアドバイス等を入力する。そのデータをもとに意見交換を行う。

④小中学校間交流後、資料修正、発表会の開催

交流後、中学生が入力したアドバイス等のデータを再確認し、プレゼンテーション資料の修正を行う。後日、地域・保護者へ向けて「ふるさと活性化発表会」を開催する。

小学校・第6学年・総合的な学習の時間・ふるさと活性化発表会②

【プレゼンテーション資料制作】



小学生がインタビュー活動・撮影した画像等を活用してプレゼンテーション資料を制作する。

【小学生の発表・中学生のアドバイス入力】



小学生がウェブ会議システムで発表する。中学生が学習支援ソフトへアドバイス等の入力を行う。発表後、入力内容をもとに話し合いを行う。

【修正後、ふるさと活性化発表会実施】



小中の交流後、入力データをもとに各自発表資料の修正を行う。交流の経験をいかし、発表会を行う。

1 ICTを効果的に活用するためのポイント

(1)プレゼンテーション資料制作

インタビュー時に、各端末のカメラ（静止画・動画）で記録を行う。その後の授業内で話の内容等の確認が可能になる。また、資料にも活用する。

(2)小学生の発表・中学生のアドバイス入力

小学生には、より分かりやすい発表の仕方や資料修正のための発表にするために中学生に協力してもらうことを意識させる。中学生は「発表内容について」「発表の仕方について」等、視点を統一して入力を行う。

(3)交流後、資料修正、発表会の実施

中学生の入力データは、資料修正時にも活用することができる。改めて小学生のみでアドバイス等について話し合い、資料に反映する。

2 児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット

ウェブ会議システムの活用により、小中の交流が容易になったことで、前年度6年生としてアドバイスを受けた児童が、今年度には中学1年生となり、アドバイスを送る側として交流が継続されている。年度を超えて交流を継続することで、児童生徒にとっては、学年を超えた人間関係づくりやICTのよりよい活用につながる。教師にとっては、前年度までの取組を参考に授業を組むことができる。

【活用したソフトや機能】

カメラ機能・ウェブ会議システム・プレゼンテーションソフト

学習支援ソフト（ファイル共有機能）・デジタルホワイトボードソフト